



## アーバンソウルズ

2月25日発売

黒人青年、宗教、ヒップホップ・カルチャー

◆B6変型・160頁・定価2640円

オサジエラオ・ウフル・セイクウ [著] / 山下壮起 [訳]

人種・性・階級の交差的な差別と殺人的な警察暴力が支配するアメリカの現実。モラルに固執し形骸化した黒人キリスト教会。社会の崩壊、文明の黄昏を生きる抵抗者たちの靈魂は、音と詩となってこの世界を超出する。ブラック・ライヴズ・マターと共闘し、蜂起のうねりに身を投じる、戦闘的黒人牧師が放つインナーシティの解放神学。序文はコーネル・ウェスト。巻末には詳細なアーティスティック索引。

既刊

山下壮起著

ヒップホップ・レザレクション ラップ・ミュージックとキリスト教

定価3520円

## ビリー・グラムと「神の下の国家」アメリカ

福音伝道者の政治性

2月25日発売

◆四六判・216頁・定価2750円

相川裕亮 [著]

(あいかわ・ゆうすけ氏は広島大学法学部助教)

アイゼンハワーからオバマに至る歴代大統領と親密な関係を結び、「アメリカの牧師」として彼らの政策に有形無形の影響を及ぼし、牧師としてただ一人国葬されたグラムの、主に冷戦下70年代までの思想と行動を「福音伝道者」という観点から解明した俊英の力作。〈預言者〉でも〈祭司〉でもないこの独特な宗教者の類型から何が見えってくるか。アメリカ宗教史／政治史への新たな視角。



既刊

ジミー・カーター著／瀬戸毅義訳

信じること働くこと

ジミー・カーター自伝

本体2640円

# 中世キリスト教の 七つの時

2月22日発売

片山寛〔著〕

（かたやま・ひろし氏は西南学院大学教授）

◆A5判・288頁・定価2750円

中世思想史からキリスト教の核心へ。神学と哲学、大  
学と修道院、疫病と社会。これらの関係の中から神に  
ついての真理を探究し、膨大な思索を紡ぎ出してきた  
中世キリスト教。教理と社会の相互関係史を探究し、  
その問題の核心に迫った興味尽きない14編。



## 【目次より】

- 序 瀧澤・バルト・トマス
- I 古代末期
- II 古代・中世
- III 11世紀
- IV 12世紀
- V 13世紀
- VI 14世紀
- VII 15 - 16世紀

## 【目次より】

- 第一部 人間学と宗教性**
- 第一章 総合人間学の試論とその課題
- 第二章 人間存在に内在する宗教性の考察
- 第三章 シューマッハーの「超経済学」とその宗教的性格
- 第四章 エリアーデの宗教論
- 第二部 内村鑑三とその周辺——歴史的回顧**
- 第一章 留岡幸助と内村鑑三
- 第二章 井口喜源治と内村鑑三
- 第三章 若き黒崎幸吉の回心とその後の歩み



# 人間存在に内在する 宗教性について

2月15日発売

三浦永光〔著〕

（みうらながみつ氏は津田塾大学名誉教授）

◆四六判・203頁・定価1650円

人間とは何者か——人間存在の本質に迫ってその宗教  
性を明らかにすると共に、内村鑑三の感化を受けて鮮  
やかな生の軌跡を描いた三人の先達、留岡幸助、井口  
喜源次、黒崎幸吉の生涯をたどる。現代に求められて  
いる宗教性を探る。

トマス・レーマー著／白田浩一訳  
**ヤバい神** 不都合な記事による旧約聖書入門

旧約聖書には、神が残酷で好戦的で家父長的だという印象を与える記述が少なくない。そのようなテキストをどう解釈すべきか。多くの人が躓きを覚える「不都合な記事」を取り上げ、そうした表現の意味と理由を丁寧に考察し、神の真の姿に迫った異色の旧約入門。 四六判・予価2420円

浅野淳博著

**死と命のメタファ** キリスト教贖罪論とその批判に対する聖書学的応答

「キリストは人間に代わってその罪を負い、身代わりとなるために死んだ」という代理贖罪論は果たして正しいのか。少数者に犠牲を強いる「犠牲のシステム」だとの批判を受けとめつつ、聖書及び関連古代文献を徹底的に検証し、キリストの死の意味とその語り方を考える。 A5判・予価2750円

内田樹著

**レヴィナスの時間論**

戦後のレヴィナス思想の出発点を告げる『時間と他者』。難解をもつて鳴る同書を徹底的に精読、注解することを通して、深い苦しみの時間を生き抜いたユダヤ人の希望の時間論が浮かび上がってくる。思想との真の格闘の醍醐味を味わわせてくれる書。 四六判・予価2500円

戸田聡著

**古代末期・東方キリスト教論集**

キリスト教修道制の成立をめぐる諸研究や、『エジプト人マカリオス伝』や最初のシリア語キリスト教著作作家バルダイサンに関する研究と原典翻訳など、他に著者が企図するヴェーバー『宗教社会学論集』全訳をめぐる論考を含む27編を収録。 A5判・予価5500円

● 1月に出た本と雑誌

**クイア神学の挑戦**  
クイア、フェミニズム、キリスト教



工藤万里江著 性的少数者への侮蔑語を自らの名として引き受け、教会の家父長制と性倫理に問題提起を行う新たな神学。その多様な可能性を開示した俊英の労作。

◆ A5判・定価4730円

◀ 左記の書籍が重版されました

**教義学要綱「ハンディ版」**

カール・バルト著／天野有、宮田光雄訳

2刷 ◆ B6変・定価2200円

**詩篇の思想と信仰IV**

月本昭男著

2刷 ◆ 四六判・定価3850円  
第76篇から第100篇まで

**信仰の手引き**

カルヴァン著／渡辺信夫訳 6刷 ◆ 新書判・定価1100円

**福音と世界**

2月号 植民地主義の現在形

◆ 定価660円

寄稿者：石山徳子、森千香子、菊池恵介、吉田裕、鈴木起生

ハウズイン・アズィーズ（訳・解説）酒井隆史

山口陽一、山崎ランサム和彦、宇井志緒利、田崎英明、

村澤真保呂、栗田隆子、金迅野、土井健司

●『福音と世界』三月号では、金迅野さんによる連載「いまを生きるみことば」が最終回を迎えました。担当として連載をご一緒するなかでは、二つの点でわたし自身が大きな影響を受けてきたと感じています。ひとつには、神学や聖書学だけでなく、哲学や社会学などの幅広い知見を的確に接続させていく筆捌きです。

わたしたちの生成にむかう思考と祈りの決定的な契機を、必ずや読み手と分かち合うものになることでしよう。(堀)

それは、相互の領域間でお隔たりを有する学術界のありかたと好対照をなしているようにわたしには思えました。もっとも、この連載の本当に見るべき点はその手前にあるでしょう。学問それ自体を目的としたり、その知を笠に着たりするのでは決してなく、それらを手がかりとして、数多の傷を粗雑に塗り固めた上で成り立つ社会の奥深くに潜ること。そしてそこから別の共同性のほうへと、共に、まっすぐ浮上していくこと。そうした金さんの姿勢こそが、この連載の最大の魅力だったと思っています。毎回こごとというところで引かれるのが、神学者や哲学者の言葉ではなく、金さんがこれまで出会ってきた人の身体が発する声であったことはそのなよりの証です。連載は金さんの他の論考と合わせて書籍化を予定していますが、どのような本になるのか、わたし自身が心からたのしみになっています。それは、全人的な解放と新たな

●池田観先生が一月一日に九七歳で逝去されました。軍事政権時代に事実上亡命者として日本に寄留され、大学教師として、また教会の信徒として多くの人たちに感化を与えられました。その間『世界』にTK生の筆名で「韓国からの通信」を寄稿し、民主化闘争の生々しい状況を日本人に知らせてくださったことは有名です。小社からは『流れに抗して——韓国キリスト者の証言』（一九六七年）に始まり一〇冊以上の著書・編書を出され、また『福音と世界』にも数え切れないほど書いてくださいました。小社の前社長森岡巖とは同い年というだけでなく、通じ合うところが多かったのでしょうか、まさに刎頸の交わりという表現がぴったりでした。ちょうど一〇年前に小社を訪ねてくださった時、先生は日本の詩歌に惹かれる強い思いを語られ、特に、戦前京城帝国大学で英文学を講じた佐藤清という詩人の資料探索を依頼されました。言うなれば植民者が宗主国の言語で作った詩ですが、先生は少年時代に感動した日本語の詩の美しさを熱をこめて語られるのです。(小林)

# 福音と世界

2022年  
3

特集・部落解放——歴史と可能性

A5判・80頁・定価660円・送料70円  
年間予約購読料(送料共)8760円

部落解放にかかわる五つの論点——友常勉

人種主義としての部落差別——黒川みどり

部落問題をめぐる差別の連鎖——藤野豊

東九条と部落問題——前川修

部落女性、折り重なるステイタムを乗り越えて——川崎那恵

差異の絶対性、生成する力——守中高明

——反差別のための作動配列

【好評連載】

◆「日本的キリスト教」を読む2……山口陽一

◆新約釈義 ルカ福音書3……山崎ランサム和彦

◆アジアの草の根平和の証し人7……宇井志緒利

◆間隙を思考する 非同時代性のために12……田崎英明

◆古代イスラエル文学史序説13……勝村弘也

◆靈性のエロジーあるいはマリヤリア14村澤眞保呂

◆福音のフラグメント14……有住航

◆I Say a Little Prayer 開かれる世界24(最終回)……栗田隆子

◆いまを生きるみことば24(最終回)……金迅野

◆教父学入門30(最終回)……土井健司